

東京都内の劇場・ホール集積エリアの特性に関する研究
 渋谷・下北沢・池袋を対象として

Research on the characteristics of theater and hall cluster areas in Tokyo
 Targeting Shibuya, Shimokitazawa, and Ikebukuro

○鈴木彩加¹, 田中賢²

*Ayaka Suzuki¹, Yasushi Tanaka²

We will analyze and compare the characteristics of the areas surrounding Shibuya Station, Ikebukuro Station, and Shimokitazawa Station, where theaters and halls are concentrated, and consider future town development. The results of the study can be categorized into three areas: government-led, private-led, and culture-led. In addition, if you want to stop by a facility near the station before or after watching a theater, this is often planned the day before, so in the future we will propose and develop other facilities that are linked to the theater. We aim to create a city where people can easily stop by the facilities around the station before or after watching a play. sought after.

1. はじめに

東京都は“ホール劇場等は、芸術文化の創造発信拠点としての機能に加え、にぎわいを生み出す施設等としての機能にも着目して設置されることがある”とし、施設の持続可能性等からニーズや社会的要請等について十分に検討する必要性を示している^[1]。

本研究では、東京都内の劇場・ホールの集積エリアの特性を分析・比較し、今後の劇場開発及び劇場・ホールを活用したまちづくりについて検討する。

2. 研究の方法

本研究では、集積背景が異なる渋谷駅、池袋駅から半径 1km、下北沢駅から半径 500km の 3 エリアを対象とし、東京都生活文化スポーツ局「都内ホール劇場等リスト」に記載された劇場・ホールを基に調査を行う^[2]。

研究概要を Table 1 に示す。

3. 集積の特性・背景

3-1. 渋谷駅周辺

渋谷駅周辺は特大規模のホールが点在し、渋谷駅北側には小～大規模のライブハウスが集積している傾向がみられる (Figure 1)。

渋谷エリアは関東大震災で被災した銀座や下町方面の名店を誘致するために開発を行い、1960 年代前半にはジャズ喫茶密集地、後半にはロック喫茶への急激な移行がみられた。1975 年のライブハウス「屋根裏」誕生を皮切りに、1980 年代“渋谷系”の登場により音楽の街として浸透した。そして、1988 年に開業した「ク

ラブクアトロ」により、洗練されたスタンディング形式のライブハウスが登場した。

このように、渋谷駅周辺は関東大震災後の開発を経て、“渋谷系”など独自の文化を形成し、徐々にライブハウス等が集積した「文化主導型」である。

3-2. 下北沢駅周辺

下北沢駅周辺は駅の東側に小～中規模の演劇場やライブハウスが集積している傾向がみられる (Figure 2)。

下北沢エリアは本多劇場グループの影響が非常に大きく、1980 年にホンダスタジオを設立し、空き不動産を劇場として再生する手法で、徒歩 5 分圏内に 8 つの劇場を密集して擁している。以上の特殊な経営手法により、劇場として使用しにくい反面、安く借りれる体制を築き、若年世代にも身近な劇場を展開している。

このように、下北沢駅周辺は本多劇場グループによる小規模な演劇場が集積した「民間主導型」である。

一方ライブハウスは、1986 年に渋谷から人気ライブハウス「屋根裏」が移転したことを契機に、「屋根裏」や他ライブハウスの元スタッフや常連客による新たなライブハウス開業が多数みられ、関係者による数珠繋ぎ形式に集積したと考えられる。

3-3. 池袋駅周辺

池袋駅周辺は演劇場やライブハウスが等間隔に集積している傾向がみられる (Figure 3)。

池袋エリアは、高度成長期以降にサンシャインシティ (1978 年開業) や東京芸術劇場 (1990 年開業) の開館など、文化・交流施設の集積が進み、国家戦略地区を適用した大規模な再開発事業において東京建物 Brillia HALL (豊島区立芸術文化劇場) (2019 年開業)

Table 1. 調査概要

(1) 文献・HP調査 (2023年10月~2024年9月)	
調査対象	● 調査エリア内 (渋谷駅周辺、下北沢駅周辺、池袋駅周辺) に立地する劇場・ホール・ライブハウス等に関する文献 ^{[7]~[12]} ● 渋谷区、世田谷区、豊島区の都市計画マスタープラン等 ^{[3]~[6]}
調査項目	劇場・ホールの設立・立地に関する記載、劇場・ホールの取組み等
(2) アンケート調査 (2024年6月~7月)	
調査対象	劇場利用者 (10~60代)
回答	Webアンケート調査会社登録者 渋谷エリア50名、下北沢エリア50名、池袋エリア48名
調査項目	観劇演目、観劇前後の行動、エリアに対する印象、エリアの改善点、エリアに必要な施設・設備等

1 : 日大理工・院 (前)・まち 2 : 日大理工・教員・まち

が開業した。また、現在も行政による東京芸術劇場、豊島区本庁舎（2015年開業）、東京建物 Brillia HALL、あうるすぽっと（区立舞台芸術交流センター）（2007年開業）等の集積を活かした文化創造都市として魅力のあるまちづくりを行っており、道路・公園・広場等も活用し“まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市”の実現に向けた政策を進めている。

このように、池袋駅周辺は行政による劇場都市に向けた意欲的な政策等によって集積した「行政主導型」である。

4. アンケート結果・考察

劇場・ホールでの観劇前後に該当駅周辺施設に立ち寄った利用者は、渋谷（観劇前 52%、観劇後 54%）、下北沢（観劇前 54%、観劇後 56%）は比較的多いのに対し、池袋（観劇前 46%、観劇後 44%）は少ない傾向にあった。また、観劇前の立ち寄りについては渋谷、下北沢、池袋の全てで前日以前までに計画を立てていたが、観劇後の立ち寄りについては渋谷（37%）、池袋（38%）は前日までに計画を立てていたケースが最も多いのに対し、下北沢は計画を事前に立てずふらっと立ち寄ったケースが 42% と最も多い結果となった。

要因として、観劇以外の目的を含めたエリアへの来訪頻度が数ヶ月に 1 回ほどの回答が渋谷（40%）、下北沢（40%）、池袋（37%）の全てで最も多く、来訪頻度が比較的低いことから、観劇と併せて事前に訪れる場所を決めていると考えられる。

また、賑わい、交通手段、街並みの美しさ、また訪れたい等の項目に関しては、3 エリアで大きな差は見られなかった一方、治安が良いと思うかについては「そう思わない」、「ややそう思わない」と答えた割合が渋谷（24%）、池袋（29%）に比べて、下北沢（8%）は低く、ふらっと立ち寄りやすい傾向があると考えられる。

5. まとめ

3 エリアは「文化主導型」、「民間主導型」、「行政主導型」に分類でき、民間・行政主導型は計画的に劇場・ホールが立地している一方、文化主導型は時代等のブームから個人事業者や企業による集積がみられる。

アンケート調査により、観劇前後に該当駅周辺施設に立ち寄る場合は前日以前に計画を立てるケースが多く、観劇に付随して他施設を提案する媒体の充実や、観劇前後に該当駅周辺施設に立ち寄らない人がふらっと立ち寄れるまちづくりの工夫が求められる。

6. 参考文献

- [1] 東京都、ホール・劇場と施設のあり方～誰もが鑑賞できる想像発信の場に向けて～、平成 29 年 3 月
- [2] 東京都生活文化スポーツ局、都内ホール・劇場等リスト（令和元年度「都内ホール・劇場等の調査委託」結果）、令和元年 9 月
- [3] 渋谷区、渋谷区まちづくりマスタープラン、令和元年 12 月
- [4] 世田谷区、世田谷区都市整備方針（世田谷区の都市計画に関する基本的な方針）、平成 26 年 4 月
- [5] 豊島区、豊島区都市づくりビジョン、令和 3 年 4 月
- [6] 豊島区、豊島区国際アート・カルチャー都市構想、平成 28 年 8 月
- [7] 三浦展監修、渋谷の秘密、2019 年 11 月
- [8] 徳永京子、「演劇の街」をつくった男：本多一夫と下北沢、2018 年 1 月
- [9] 芸術教養学科 WEB 卒業研究展、<http://g.kyoto-art.ac.jp/reports/3858/>
- [10] 聖地を守り、広げる。ライブハウス「ろくでもない夜」が仕掛けてきた下北沢ライブシーンでの実験、2023 年 9 月
- [11] 【インタビュー】下北沢 CLUB Que 25 周年、二位徳裕氏に訊いた「下北沢が「音楽の街」と言われる由縁」、<https://www.barks.jp/news/?id=1000172983>
- [12] 東京芸術劇場、東京芸術劇場の 25 年、2016 年 3 月

Table 2. 行政資料

劇場集積エリア	マスタープラン等における劇場・ホールに関する記述
渋谷	<ul style="list-style-type: none"> 劇場をはじめとした文化・エンタテインメントに関する施設間の連携を図ることにより、それぞれの施設が持つ企画力を生かした共同イベントを実施するなど、新たな文化・エンタテインメントを創出 昼も夜もいつでもエンタテインメントや文化を体験するための、劇場、ホール、ギャラリー、スタジオ、スポーツ施設、イベント広場などの誘導を図り、世界中の人々を惹きつける 「創造文化都市」として、世界中の人々を惹きつける都市機能を誘導 「住む、働く、遊ぶ、学ぶ」といった多様な用途が、「大・中・小」の多様な規模でミックス・集積することを誘導します。大きなものから小さなものまでである、渋谷らしい多様なスケール感が共存する街並みを継承 渋谷駅周辺に立地するメディア、エンタテインメント、テクノロジー等の世界的な拠点の周囲に、多様な担い手が集積・交流することを誘導
下北沢	<ul style="list-style-type: none"> 若者をはじめ多くの人が徒歩で行き来でき、個々の魅力的な商店街や劇場などの商業・文化などの機能が充実した、個性的な文化を持つ活気あふれた拠点
池袋	<ul style="list-style-type: none"> 平成17（2005）年9月に「文化創造都市宣言」を行い、文化を軸にした魅力ある都市づくりに取り組んできた 平成20年（2008）年度には、東京都内で初となる文化庁長官賞「文化芸術創造都市部門」を受賞するなど、先進的な文化政策が高く評価されている 平成22年（2010）年3月には「豊島区文化政策推進プラン」を策定し、文化による地域力の創造を目指すための方針を示し、文化とあらゆる分野を融合させた政策を展開 東京芸術劇場、豊島区本庁舎、東京建物 Brillia HALL、区立舞台芸術交流センターなど文化芸術施設の集積を活かして、東京の魅力や産業の創造を支える都市基盤の整備や交流、情報発信などの都市機能を充実 池袋駅及び東池袋と、池袋駅東口の Hareza 池袋、サンシャインシティと西口の東京芸術劇場など主要な施設間のアクセスを強化するため、歩行者を優先する道路と文化芸術拠点などの周辺を結び快適で円滑な歩行者ネットワークを形成 国際アート・カルチャー都市構想を実現する「まち全体が舞台の誰もが主役の劇場都市」づくりに取り組み、東京の国際競争力を高める拠点を形成 東京芸術劇場、Hareza 池袋の東京建物 Brillia HALL、あうるすぽっと、豊島区本庁舎、サンシャインシティを「文化芸術拠点」として位置づけ、拠点間のネットワークを強化 Hareza 池袋は、長年にわたり豊島区旧本庁舎や公会堂が位置した重要なエリアであり、豊島区本庁舎周辺と連携したにぎわいを創出する文化芸術拠点を形成するとともに、商業、業務、交流、情報発信など複合的な都市機能をあわせて誘導 補助77号線（グリーン大通り）や公園、広場などのオープンスペースは、パフォーマンスやアート展示など文化芸術の舞台として活用するとともに、映画やドラマ、CMの撮影を積極的に受け入れ、都市全体で魅力を発信 「豊島区産業振興指針」に基づき、歴史ある池袋モンパルナスやマンガ文化に加えて、新たな文化芸術の核となる映像や音楽、娯楽など創造的な産業を池袋副都心の再生を牽引する産業のひとつに位置づけ、新たな活力を生み出す都市づくりを推進 劇場や映画館、商業施設などのネットワークを強化し、それぞれの個性を生かしながら、同じテーマ性を持った公演やイベントなどを開催することにより、都市全体が一体となって文化を感じられるまちづくりを検討

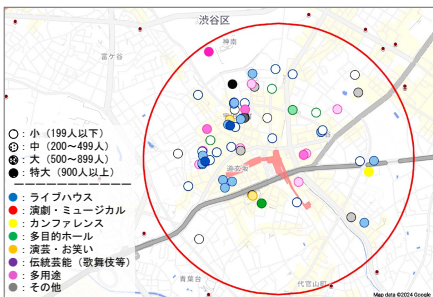


Figure 1. 渋谷駅周辺の劇場・ホール

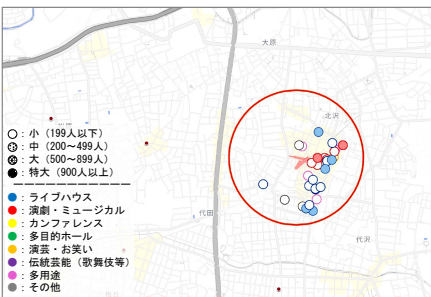


Figure 2. 下北沢駅周辺の劇場・ホール

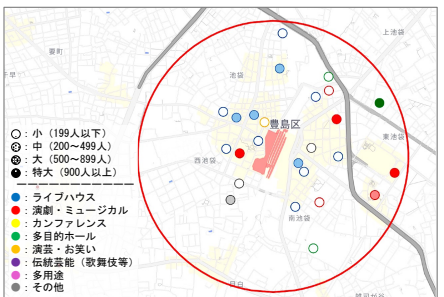


Figure 3. 池袋駅周辺の劇場・ホール